

【説明資料】 発明・工夫作品コンテスト 製作の動機または目的、利用方法、作品自体やその製作過程で工夫したことを、文章、写真、図などで説明。この用紙1枚に記入し、PDF ファイルに変換した後、ホームページに貼り付けてください。

学校名	三重大大学	個人・グループ名	技術教育コース 電気工学研究室	作品名	知的財産学習教材 「知財ってなんだろう」
-----	-------	----------	--------------------	-----	-------------------------

1. 制作の動機

世界経済のグローバル化の進展によって、模倣品・海賊版が世界規模で拡散している。近隣国である日本と中国の知的財産に関する問題は突出して多いが、それを解決するためには、一般市民、あるいは両国の未来を担う子どもたちに対する知的財産の意識や知識を育成することである。知財制度は国々の政策により異なるが、知財に対する考え方や態度が同じにできれば、地域、国が違っても根本的に問題を解決できるのではないかと考える。

その第一歩として、日中で共に学べる知財に関する授業作りを目指している。日中双方の発明等を取り入れた授業とし、お互いに相手の国で生まれた知財を日常から利用していること、またこの授業そのものが相手の国の学校でも共通に実施されていることを知ることで、共通意識を持たせることができると考えた。

応募者らは、それに向けて、日中で共通で実施する授業構成を検討、教材を作成した。日本国内で授業を試行した結果、生徒が学習するための共通教材としての有効性が確認できた。

2. 知的財産の授業の構想と実施

日中の発明を題材として取り上げることが前提として、授業の目標を次のように設定した。

- ① 身近な発明をきっかけにして知財に興味を持ち、知る。
- ② 知財は身の回りに存在することを理解し、知財への意識を高める。
- ③ 知財の必要性を理解し、他人の知財を尊重するとともに自ら創造できるようにする。
- ④ 知財に国境がないことを理解する。

授業は、目標に対応して次の内容で、2013年11月に、50分×2回実施した。

I. 身近な発明から知財を知る

ア) 「発明」の定義を説明する イ) 紙の発明について説明する ウ) 身の回りの紙の発明について考えよう

II 知財の必要性を理解する

ア) 知的財産とは イ) 産業財産権とは ウ) 模倣品の問題



図1 教壇場面



図2 生徒の様子

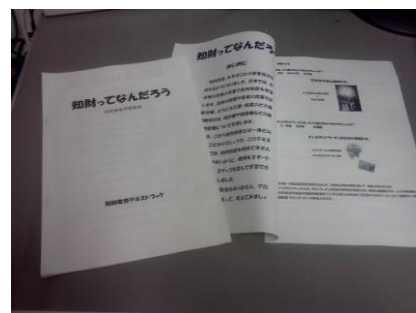


図3 知財教材

3. 知的財産学習教材「知財ってなんだろう」の構想と制作

2回の授業では、授業内容に即した既存の教材がないため、図1、図2にあるように、プレゼンテーションソフトを活用した授業を展開した。授業開始前と授業実施後に実施したアンケート調査では、一定の効果が認められたが、今後の知識の定着を図るには、授業内容に即した教材が必要であることがわかった。

そこで、授業内容を精選し、2013年12月、知的財産学習教材「知財ってなんだろう」(図3)制作に至った。現段階では、日本語による記述のみだが、中国国内での授業に向けて、中国語での記述作業を進めており、近く中国内モンゴル自治区内の学校で効果を検証する予定である。また、中国語にとどまらず、韓国語、英語による記述を併せ、グローバルな知財教育を視野に入れていきたいと考えている。

本制作にあたっては、三重県立津商業高等学校が進める三重県教育委員会「若き『匠』育成プロジェクト」と連携している。